



文政三年庚辰正月十七日於博愛之舟



博愛之舟の行々〜結
還唐と努〜と

月居

燈深姫〜結を以て〜母〜し海紐

柳冬花の〜梅〜と〜結 我雪

左義長に小船〜とせし〜とせそ 魯隠

解根木の赤き花鞠わりのやうり 長高

下〜等〜と〜月の臺よ送の行り 亀雄

ぬ〜と〜わりのりきりの大勢 乃十

累もたう刈萱原のこころ川那 月江

十ツ牛の子うむうまじり 再可

辻占を笑あやさんと戸小侍と 花濃

松梅のむよ恵とくくく 執筆

下略

祝 畧あふ

千世まくとと生れあふり赤穂 急測